

「アジア・オープン・フォーラム」

第12回 松本会議

御 案 内

21世紀に向けて、アジアの動向がさらに重要性を高めつつあるなかで、世界の注目を集めた大統領選挙が終了し、中華世界初めての民主的な政権交替がおこなわれた台湾の存在が、ひとときわ脚光を浴びております。

本年3月に選出された陳水扁総統は、基本的には李登輝前総統の路線を踏襲していくこととなるでしょうが、このような台湾民主政治の発展が中国大陸や周辺諸国に与える影響も、はかり知れないものがあると思われます。同時に、台湾の人びとの新たなアイデンティティー確立の模索にも注目すべきものがあります。

一方、1972年9月の日台断交以来、公式な外交関係を持たない我が国と台湾との関係は、日台間の経済的・人的交流が中国大陸とのそれに比肩もしくは凌駕しているにもかかわらず、きわめて不十分なものでした。

私たちは、台湾の新しい状況および日台関係の重要性に鑑み、民間の知的交流の場として1989年5月に「アジア・オープン・フォーラム」を発足させ、同年6月に第1回台北会議、90年7月に第2回東京会議、91年7月に第3回台北会議、92年11月に第4回京都會議、93年11月に第5回台北会議、94年10月に第6回横浜会議、95年8月に第7回高雄会議、96年11月に第8回大阪会議、97年10月に第9回台中会議、98年11月に第10回松江会議、そして昨年12月には第11回台南会議を開催し、いずれもきわめて高いレベルで日台双方を代表するメンバーや外国人ゲストの出席を得て、実りある討論を積み重ねてまいりました。日台関係の上で、すでに一つの歴史的貢献を果たしたと自負することもできると思います。

そのような成果のゆえにこそ、すでに前回の台南会議でも申し上げましたが、李登輝時代の12年間とともに歩んできた当フォーラムは、今回の第12回松本会議をもって、現在のような会議方式で開催する最終回とさせていただきたく思います。今回は、これまで同様、台湾を代表する40余名のメンバー（団長：辜振甫・海峽交流基金会董事長）をお迎えし、「新世紀への知的戦略」を共通テーマに別項のようなセッションで日台双方、ひいては広くアジア全域に共通する諸問題を率直に論じ合いたいと思っています。

また、国際政治や国際経済、国際関係の各側面においてグローバル化が進展する状況に鑑み、広く中国、香港、韓国、米国、フランス、ロシアなどからもゲストをお招きし、より多角的な視野から、議論を深めたいと考えております。

なお、李登輝前総統は、一知識人として当フォーラムに是非出席したいとの強い意向を引きつづきお持ちですので、それが実現できますように私たちも努力したいと考えております。

皆様方のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2000年8月

「アジア・オープン・フォーラム」世話人一同

会議日程

共通テーマ「新世紀への知的戦略」

会場：ホテル プエナビスタ 松本市本庄1-2-1 TEL：0263-37-0111 FAX：0263-37-0666

宿泊：ホテル プエナビスタ 同上

松本東急イン 松本市深志1-3-21 TEL：0263-36-0109 FAX：0263-36-0883

10月28日(土)

台湾側代表团来日（中華航空CI 100便、12:00台北空港発、15:45羽田空港着）

台湾側代表团、帝国ホテルに移動、宿泊。

宿泊：帝国ホテル 千代田区内幸町1-1-1 TEL：03-3504-1111 FAX：03-3504-1288

10月29日(日)

バスで松本市へ、途中松本市内観光を経て、会場へ。

歓迎晩餐会（18:30～20:30）

会場：ホテル プエナビスタ

10月30日(月)

開会式（9:00～10:00）

日本側代表团長挨拶：亀井正夫（住友電気工業相談役）

台湾側代表团長挨拶：辜振甫（海峡交流基金会董事長）

貴賓祝辞

来賓挨拶

台湾側：郭婉容（国家發展基金会董事）

日本側：塩川正十郎（自由民主党衆議院議員総会長、東洋大学理事長）

第1セッション（10:00～12:30）

「グローバリズムとアジアの現実」

議長：金森久雄（日本経済研究センター顧問）

報告者：深田祐介（作家）

陳小紅（国立政治大学社会科学学院院长）

討論者：林碧炤（国立政治大学外交学系教授）

青木保（政策研究大学院大学教授）

昼食（12:30～14:00）

第2セッション（14:00～16:30）

「経済戦略と情報環境」

議長：張京育（中華欧亜教育基金会理事長）

報告者：劉大年（中華経済研究院研究員）

石井威望（東京大学名誉教授）

討論者：岡崎久彦（博報堂岡崎研究所所長、外交評論家）

劉泰英（台湾綜合研究院院長）

10月31日(火)

第3セッション (9:00～11:30)

「文化と安全保障」

議長：大宅映子（評論家）

報告者：日下公人（多摩大学大学院教授、東京財団会長）

林正義（中央研究院欧米研究所所長）

討論者：許介麟（台湾大学法学院院長）

山崎正和（東亜大学学長、劇作家）

閉会式 (11:30～12:00)

議長：鄭丁旺（国立政治大学学長）

金森久雄（日本経済研究センター顧問）

台湾側挨拶：何恩因・台湾側代表団秘書長（国立政治大学国際関係センター主任）

日本側挨拶：中嶋嶺雄・日本側代表団秘書長（東京外国語大学学長）

昼食 (12:00～13:00)

松本音楽文化ホール（The Harmony Hall）へ移動。

閉幕セレモニー (14:00～16:00)

会場：松本音楽文化ホール（The Harmony Hall） 松本市島内4351

TEL:0263-47-2004 FAX:0263-47-2383

才能教育研究会（スズキメソード）による歓迎演奏

特別シンポジウム「アジア・オープン・フォーラムの12年間」

美ヶ原温泉「ホテル翔峰」へ移動。

台湾側答礼宴 (18:30～20:30)

会場・宿泊：美ヶ原温泉「ホテル翔峰」 松本市大字里山辺527

TEL:0263-38-7711 FAX:0263-38-7700

11月1日(水)

台湾側代表団・外国人ゲスト、晩秋の上高地への小旅行。

宿泊：上高地帝国ホテル 南安曇郡安曇村上高地

TEL:0263-95-2001 FAX:0263-95-2412

11月2日(木)

上高地散策ののち東京へ移動。

宿泊：帝国ホテル

11月3日(金)

台湾側代表団離日（中華航空CI 17便、14:00羽田空港発、16:40台北空港着）

「アジア・オープン・フォーラム」名簿

〈顧問〉

(五十音順)

梅 棹 忠 夫 (国立民族学博物館顧問)

平 岩 外 四 (東京電力相談役)

〈メンバー〉

☆合 田 周 平 (九州ヒューマンメディア創造センター
理事長、電気通信大学名誉教授)

☆小 林 陽太郎 (富士ゼロックス会長)

青 木 保 (政策研究大学院大学教授)

近 藤 道 生 (博報堂代表取締役)

赤 澤 璋 一 (機械産業記念事業財団顧問)

佐 々 淳 行 (評論家、元内閣安全保障室長)

明 間 輝 行 (東北電力取締役会長)

島 田 晴 雄 (慶応義塾大学教授)

☆飯 田 経 夫 (中部大学大学院教授、名古屋
大学名誉教授)

末 次 一 郎 (安全保障問題研究会代表)

☆石 井 威 望 (東京大学名誉教授)

関 本 忠 弘 (日本電気取締役相談役)

石 井 幹 子 (石井幹子デザイン事務所

高 原 須美子 (経済評論家)

代表取締役)

田久保 忠 衛 (杏林大学教授)

市 村 眞 一 (国際東アジア研究センター所長)

竹 中 一 雄 (国民経済研究協会顧問)

大 宅 映 子 (評論家)

竹 村 健 一 (評論家)

岡 崎 久 彦 (博報堂岡崎研究所所長、

☆武 山 泰 雄 (武山事務所代表)

外交評論家)

堤 清 二 (セゾン文化財団理事長)

粕 谷 一 希 (評論家)

☆中 嶋 嶺 雄 (東京外国語大学学長)

加 地 伸 行 (大阪大学名誉教授)

中 谷 巖 (三和総合研究所理事長、

☆金 森 久 雄 (日本経済研究センター顧問)

多摩大学教授)

神 谷 不 二 (東洋英和女学院大学教授、

袴 田 茂 樹 (青山学院大学教授)

慶應義塾大学名誉教授)

芳 賀 徹 (京都造形芸術大学学長、

☆亀 井 正 夫 (住友電気工業相談役)

平 川 祐 弘 (福岡女学院大学教授、

東京大学名誉教授)

川 島 廣 守 (日本プロフェッショナル野球
組織コミッショナー)

平 松 守 彦 (大分県知事)

河 田 悌 一 (関西大学文学部長)

☆深 田 祐 介 (作家)

北 岡 伸 一 (東京大学教授)

松 谷 健 一 郎 (中国電力常任相談役)

京 極 純 一 (東京大学名誉教授)

三 浦 朱 門 (作家)

☆日 下 公 人 (多摩大学大学院教授、

村 上 陽 一 郎 (国際基督教大学教授)

東京財団会長)

森 井 清 二 (関西電力相談役)

草 柳 大 蔵 (評論家)

山 崎 正 和 (東亜大学学長、劇作家)

香 西 泰 (日本経済研究センター会長)

若 林 正 丈 (東京大学教授)

☆は世話人

(2000年7月現在)

事務局：〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル9F

(株) サイマル・インターナショナル内

「アジア・オープン・フォーラム」担当 大宮司・永田

TEL 03-5323-5788 FAX 03-5323-7023